

令和4年4月28日

熊本白菊会会員および成願者ご遺族の皆様へ

熊本大学医学部形態構築学講座（解剖学担当）  
教授 福田孝一  
熊本白菊会会長  
江富 聡

令和4年4月27日付の報道で、島根大学医学部における不適切なご遺体の管理についての記事を読まれた皆様の中には、献体について不安を感じていらっしゃる方々もおられるかと存じます。皆様にご安心いただくために、解剖学実習の責任者として、熊本白菊会江富会長とともに、熊本大学での状況をご説明いたします。

熊本大学医学部におきましては、今回のようなことが起きる可能性は全くありませんので、どうぞご安心ください。

解剖学教室では、献体されたご遺体に対し、最大の敬意のもとに、万全を期す管理を行っております。大学にお預かりしたご遺体は、まず最初に、確実に個人の特定ができる措置を講じます。それは、実習を終了し、ご遺骨を遺族の皆様のもとにお返しする時まで、きちんと保たれます。また、ご遺体を大学にお迎えしたのち、すみやかに保存処置を施しております。すべての作業過程を、長年の経験を有する専門技術職員2名が、相互に確認を行いながら実行しています。

熊本大学では、会員様のご登録、ご成願後の献体のお預かりから、遺骨返還式におけるご遺族様への遺骨返還までの全ての業務を、白菊会と解剖学教室の教員・技術職員、ならびに大学の担当事務職員との間の緊密な協力体制により、行っております。また最初から最後まで、献体された方々のお体は、お一人ずつ大切に扱わせていただいております。そして最も大事なことです。実習に臨むすべての学生は、真摯な態度により、献体された方のご遺志に報いることができる、立派な学びを行っております。

皆様におかれましては、ぜひご安心いただき、これまで同様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。